

2023年(令和5年) 4月13日 木曜日

デーリー東北 Dash1・2・3・4・8面 掲載

Dash

Daily Tohoku Sports Magazine 「ダッシュ」

デーリー東北新聞社

月刊

2023 April

4

4月13日発行 (毎月第2水曜日発行) 定価100円(税込)



地域をつなぐ、スポーツでつなぐ

大学野球春季リーグ
15日開幕

1部注目選手

高橋凱

(八戸学院大)

今野瑞暉

(青森大)

工藤大翔

(青森中央学院大)

中野裕太

(岩手大)

中岡大河

(富士大)

下沢優斗

(ノース大)

激戦

北東北大学野球

NORTH TOHOKU UNIVERSITY BASEBALL

2023

まちのげんきじるし
アイスホッケー

Hachinohe Club Lady's

青森ワッツ
常田耕平

ヴァンラーレ八戸
養田広大



GENKI

まちなぎんきじるし

このコーナーでは、地元で頑張る
小中学生を中心としたアマチュアチームを紹介しています。



所属メンバー

※◎は主将

氏名	所属・学年
中里 光葉	八戸工高3年
中島ひなた	八戸工高2年
庄子愛佑美	桂向会旭ヶ丘赤ちゃんの家
フィールド雪海	八工大3年
中村 紗穂	下長中2年
上澤 玲奈	秀明機材
姓名 綾香	三沢市立三沢病院
山本 歩	茨城会療育・障害者相談センターボイス
松本 琉琉	八戸光星高2年
堀内 彩妃	HOCKEY SHOP NEEDA
◎堀内 萌恵	青森労災病院
佐々木 梅	八戸西高2年
西村 楓	八戸一中3年
福澤 沙紀	八戸市役所
中里 文江	八戸圏域水道企業団
日向 薫	Hachinohe Club
仙道 円か	日本ハム北海道ファクトリー青森生ハム工場
畑中 心寧	八戸高1年

全日本選手権2部へ昇格

「選手自らまとまるのが強み」

Hachinohe Club Lady's (八戸クラブレディース)

文・写真= 桑田 友八

八戸市を拠点とする女子アイスホッケーチーム「Hachinohe Club Lady's (八戸クラブレディース)」には、中学生から社会人までが所属する。世代別の元日本代表がいれば、大人になって競技を始めた人、子育ての合間を縫って打ち込む人もいて、プレイヤーや選手が置かれている環境はさまざまだ。

「言われなくても、選手同士が自らコミュニケーションを取り合い、まとまっていく」

長根繁人ヘッドコーチは、互いの立場を尊重しながら勝利に向けて高め合っていく選手たちの姿勢にこそ、チームの強さがある」と強調する。

任巻だったのは、3月中旬に札幌市で開かれた全日本女子アイスホッケー選手権。Cグループ準決勝で、地元のライバル・クリスタルレディースに延長戦の末、勝利した。

立役者の一人であるFW日向薫は、世代別日本代表に選出された経験のある実力者。大学卒業を機に八戸へ戻り、今季から加入した。

「点数を取るよりも味方をうまく使うこと」にこだわった」と日向。直前の大会で惨敗を喫した相手に勝つため、多くの選手が参加できるような練習の日程を見直し、チームプレーを磨いたという。

選手権Cグループでは最終的に準優勝を果たし、次期大会からBグループに戦いの場を移す。よりレベルの高い対戦相手を受けけるが、主力だったFW下谷唯奈が八戸市立下長中を卒業し、北海道へ進学。戦力ダウンは否めない。

それでも主将のFW堀内萌恵は「中高校生にとって、上のレベルで戦えることは意味がある」と前向きに捉える。チームの和を優先しながら「まずは残留したい」と気を引き締める。

激戦

北東北大学野球

NORTH TOHOKU UNIVERSITY BASEBALL

2023

文・取材班



北東北大学野球春季リーグ戦は15日、1～3部が一齐に開幕する。注目の1部は北東北3県の6チームが、全日本大学選手権（6月5～11日・神宮球場ほか）の出場権を懸け、5月半ばまでの5週にわたって2試合総当たりで激戦を繰り広げる。

昨秋は青森大が9勝1敗で頂点に立ち、明治神宮大会の東北地区代表決定戦の切符を手にした。7勝3敗の八学大は勝敗数で富士大と並んだが、前季の順位により3位だった。

プロ野球ドラフト会議の2位指名1人と育成1位指名2人を輩出した昨年同様、今季もハイレベルの熱戦が展開されそうだ。

1部6チームのベンチ入り有力メンバー（3月末現在）と、注目選手を紹介する。

【北東北大学野球春季リーグ1部日程表】

第1週（岩手県花巻球場）	第2週（秋田市こまちスタジアム）	第3週（弘前市はるか夢球場）	第4週（洋野町種市オーシャンビュースタジアム）	第5週（青森県営球場）
4月15日（土） 富士大-青中大(9:00) 八学大-岩手大(11:30) 青森大-ノース大(14:00)	4月22日（土） 富士大-ノース大(9:00) 青森大-岩手大(11:30) 八学大-青中大(14:00)	4月29日（土） ノース大-青中大(9:00) 青森大-八学大(11:30) 富士大-岩手大(14:00)	5月6日（土） 富士大-八学大(9:00) 青森大-青中大(11:30) ノース大-岩手大(14:00)	5月13日（土） 青森大-富士大(9:00) 八学大-ノース大(11:30) 青中大-岩手大(14:00)
4月16日（日） 岩手大-八学大(9:00) ノース大-青森大(11:30) 青中大-富士大(14:00)	4月23日（日） 岩手大-青森大(9:00) 青中大-八学大(11:30) ノース大-富士大(14:00)	4月30日（日） 八学大-青森大(9:00) 岩手大-富士大(11:30) 青中大-ノース大(14:00)	5月7日（日） 青中大-青森大(9:00) 岩手大-ノース大(11:30) 八学大-富士大(14:00)	5月14日（日） ノース大-八学大(9:00) 岩手大-青中大(11:30) 富士大-青森大(14:00)

「成長で地元へ恩返し」

湯沢翔北高3年の夏、最後の秋田大会の華々決勝の敗戦が、プロ入りの目標を強くさせた。1点リードの八回一死一、三塁のピンチでマウンドに上がり、無念の逆転負け。甲子園出場の夢は絶たれた。「自分が打たれて負けた。それでも、夏に味わった最大の悔しさは前に突き進む原動力となっている。「チームに迷惑をかけた。大学で成長することが地元への恩返しだと思う。絶対にプロになる」

高校3年時に投手育成に定評のある八学大の正村公弘監督からの指導を受け、成長を確信して、進学を決めた。高校時代の最速は142キロ。大学生活ではランニング、バーベルを使った下半身の強化に励みながら、正村監督の指導の下、フォームの改善にも努め、3年間で10キロのスピードアップを実現した。球速だけでなく、球質にもこだわっている。放った球の回転数を上げ、相手投手のバットに当たっても飛ばない「重い球」を目指してきた。「1日置きに150球を投げ込んできた。チームのための投球をするために、かなり練習した」と向上心を示す。

現在は制球力が課題。「昨季はストライクが入らなくて降板したこともあった」だけに、力み過ぎない投球を心がけている。「同じフォームで投げ続けることが大切だと思う。キャッチボールに長い時間をかけて、投げ方を整えるようにしている」

高校時代を含め、全国大会への出場はまだまだない。狙うのは春季リーグでの優勝と初の大舞台だ。今季の投手としての目標は先発完投。「連戦の1試合目で投げ切って、次の日の試合でも登板するような投手になりたい」

プロ入りの強い夢を抱きながら、チームの勝利のために、並々ならぬ決意でマウンドに向かう。「チームのリーグ優勝が一番。その上で、プロに注目されるような投球をしたい」

最速152キロ 本格派右腕

八戸学院大4年

高橋 凱

Gai Takahashi

たかはし・がい 2001年6月生まれ。21歳。秋田県湯沢市出身。市立雄勝中―県立湯沢翔北高一―八学大4年。投手。最速152キロの直球と切れのあるスライダーが武器。右投げ右打ち。身長182センチ、体重85キロ。

ポジション	氏名	学年	出身校	
投手	坂主 清	4	栃木・作新学院	
	高橋 凱	4	秋田・湯沢翔北	
	平 翔太郎	4	千葉明德	
	船津 謙太	4	東京・江戸川	
	三田 隼輔	4	埼玉・浦和実	
	粕谷 映斗	3	宮城・仙台育英	
	加藤 賢	3	秋田・金足農	
	竹嶋 亮	3	北海道・札幌大谷	
	西山 幹太	3	東京・開智日本経済学園	
	井上 力斗	2	栃木・作新学院	
捕手	岩井 裕貴	2	埼玉・秀明英光	
	小林 直生	2	宮城・聖和学園	
	佐々木海秀	2	宮城・東北	
	阿部 達音	1	秋田・本荘	
	渡部 和幹	1	八学光星	
	竹本 江希	4	福島・学法石川	
	尾崎 太郎	3	北海道・江陵	
	織笠 陽多	1	八学光星	
	内野手	東海林歩喜	4	宮城・仙台城南
		細井 健人	4	八学野西
茨木 輝也		3	福島・学法石川	
錦 大輝		3	山形城北	
小林 日出		3	秋田・能代	
藤島 流輝		3	秋田中央	
細越 楓斗		3	八学野西	
大賀 光豊		2	埼玉・秀明英光	
森 蔵人		1	宮城・仙台育英	
外野手		小田島賢人	4	岩手・黒沢原北
	森本 聖也	4	大阪・大商大高	
	阿部 祐希	3	秋田・花輪	
	菊地 飛翔	3	北海道・クラーク	
	南 雅人	3	千葉学芸	
	吉田 時輝	2	長崎・島原中央	
	長谷川巧人	1	北海道・大谷富雄	

八戸学院大

HACHINOHE GAKUIN UNIVERSITY

2022年秋季リーグ戦=3位

戦力充実 狙うは優勝

昨秋は7勝3敗で3位。近年でトップクラスの戦力を誇る今季、4年ぶりの優勝を目指す。

1日500回の素振りを課し、課題の打線を強化してきた。主将の森本聖也(大阪・大商大高)、4番の小林日出(秋田・能代)の活躍に期待がかかる。

投手陣は150キロ超えの本格派・高橋凱(秋田・湯沢翔北)と直球に威力がある三田隼輔(埼玉・浦和実)が主戦の軸。抑えの坂主清(栃木・作新学院)へ最少失点でつなげるか。



2023年 北東北大学野球春季1部リーグ

参加6大学紹介